

河川砂防技術研究開発公募 砂防技術分野

平成26年度採択テーマ

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
<p>・火山地域における水文・土砂流出メカニズムの解明と土砂災害防止事業支援のための数値シミュレーション法の開発                      ・崩壊・泥流災害への対応技術の開発研究                      (研究期間：H26年～H28年)</p>	<p>立命館大学                      教授 里深 好文</p>	<p>A</p>
<p>&lt;研究概要&gt;</p> <p>崩壊、泥流、土石流など土砂移動現象の素過程、これらの発生場の地形・地質・植生及び発生を引き金となる降雨・流出等の水文過程について、これまでに蓄積されてきた研究成果や今回新たに実施する現地観測・調査、理論解析及び数値シミュレーション法にもとづいて解明するとともに、これらの成果を統合することにより土砂災害の防止・軽減に寄与することを目的とする。</p>		
<p>&lt;事後評価コメント&gt;</p> <p>本研究は、過剰間隙水圧の発生・変動予測数値計算モデルの構築や植生変化と火山泥流発生の関係の分析、流木により橋梁閉塞過程の数値モデルの構築を行い、火山地域に対応した土石流の発生から氾濫までの一連の数値シミュレーション手法を提示した。</p> <p>具体的には、降雨確率規模に対する崩壊発生危険度判定手法や崩壊の時空間分布予測を用いた危険斜面抽出手法をはじめとして、泥流の構成則に関する研究を基礎として新たに導いた泥流の質量保存則などから氾濫領域設定手法などを提示した。</p> <p>これらの成果により、土砂や流木の流出による氾濫区域の予測精度の向上が期待できる。</p> <p>今後は、個々の研究成果の更なる統合化とパラメータの設定手法の開発を行い、実用化に向けた検討を進めて頂きたい。</p>		

※評価基準

- A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B：研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C：一定の研究成果があった
- D：研究成果があったとは言い難い